

令和4年度全国学力・学習状況調査

調査結果 大分県(公立)

令和4年8月5日(金)
大分県教育庁義務教育課

1 調査の概要

- (1) 調査期日 令和4年4月19日(火)
- (2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数)
 - ◆小学校6年生 9,044人(244校)
 - ◆中学校3年生 8,571人(119校)

※調査対象児童生徒が在籍する、市町村立小中学校(義務教育学校含)、県立学校

(3) 調査内容

- ◆教科に関する調査:国語、算数・数学、理科 ※理科は3年に1度実施(前回はH30に実施、R2は中止)
- ◆児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

<調査の目的>

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 結果の概要(教科別平均正答率)

小学校

- 算数、理科は全国平均正答率を上回り、国語は全国平均並み。

中学校

- 数学は全国平均正答率を上回り、国語、理科は全国平均並み。

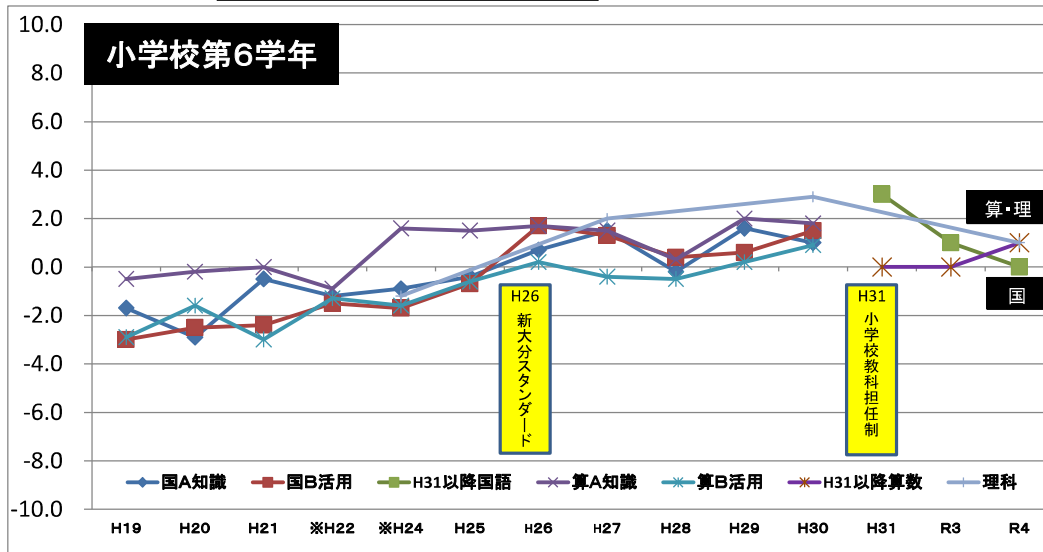
対象児童生徒	小学校6年生			中学校3年生		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
R4大分県 (公立)	66	64	64	69	52	49
R4全国 (公立)	66	63	63	69	51	49
全国平均正答率との差	0	+1	+1	0	+1	0

全国学力・学習状況調査 全国平均正答率との差の推移

資料2

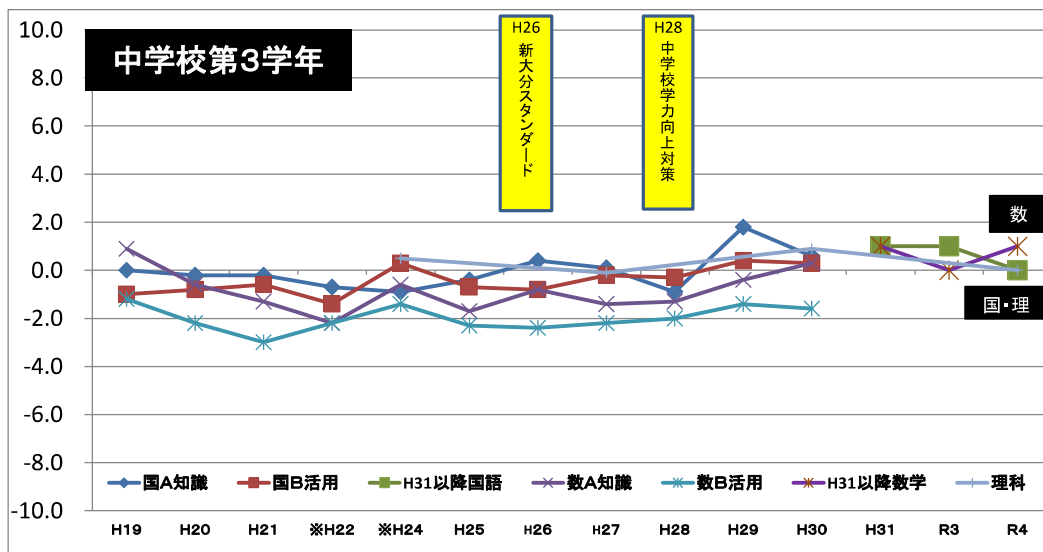
教科・区分別

※H22,H24調査は、抽出調査
■H31調査以降は、A・Bの区分せらずに実施



※H22,H24調査は、抽出調査
■H29から、序列化や過度な競争を避けるため、都道府県別数値は整数値での公表に変更

対象学年	小学校第6学年				理科
	国語		算数		
	A知識	B活用	A知識	B活用	
R4	0		1		1
R3	1		0		
H31	3		0		
H30	1.0	1.5	1.8	0.9	2.9
H29	1.6	0.6	2.0	0.2	
H28	-0.2	0.4	0.3	-0.5	
H27	1.5	1.3	1.5	-0.4	2.0
H26	0.7	1.7	1.7	0.2	
H25	-0.4	-0.7	1.5	-0.6	
※H24	-0.9	-1.7	1.6	-1.6	-1.2
※H22	-1.2	-1.5	-0.9	-1.3	
H21	-0.5	-2.4	0.0	-3.0	
H20	-2.9	-2.5	-0.2	-1.6	
H19	-1.7	-3.0	-0.5	-2.9	



対象学年	中学校第3学年				理科
	国語		数学		
	A知識	B活用	A知識	B活用	
R4	0		1		0
R3	1		0		
H31	1		1		
H30	0.6	0.3	0.3	-1.6	0.9
H29	1.8	0.4	-0.4	-1.4	
H28	-0.9	-0.3	-1.3	-2.0	
H27	0.1	-0.2	-1.4	-2.2	-0.1
H26	0.4	-0.8	-0.8	-2.4	
H25	-0.4	-0.7	-1.7	-2.3	
※H24	-0.9	0.3	-0.6	-1.4	0.5
※H22	-0.7	-1.4	-2.2	-2.2	
H21	-0.2	-0.6	-1.3	-3.0	
H20	-0.2	-0.8	-0.6	-2.2	
H19	0.0	-1.0	0.9	-1.2	

小学校

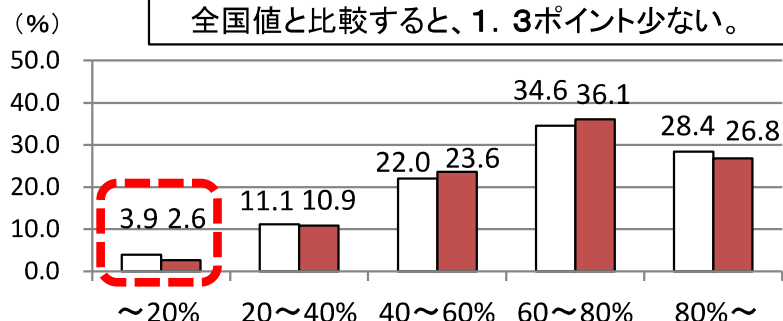
中学校

□ 全国 ■ 大分県

国語

低学力層の割合の全国平均値との差

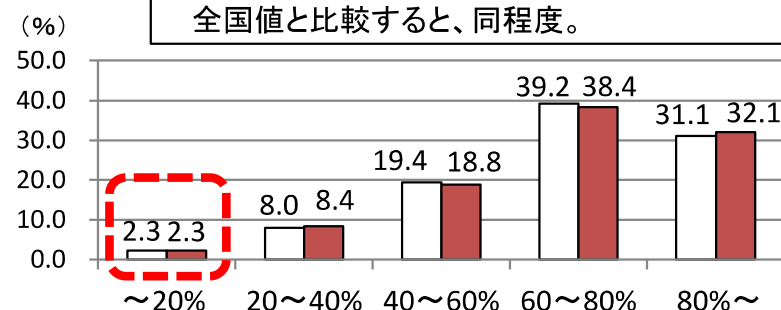
全国値と比較すると、1.3ポイント少ない。



国語

低学力層の割合の全国平均値との差

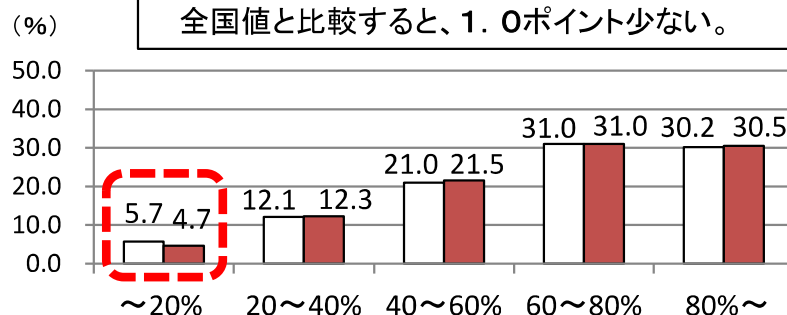
全国値と比較すると、同程度。



算数

低学力層の割合の全国平均値との差

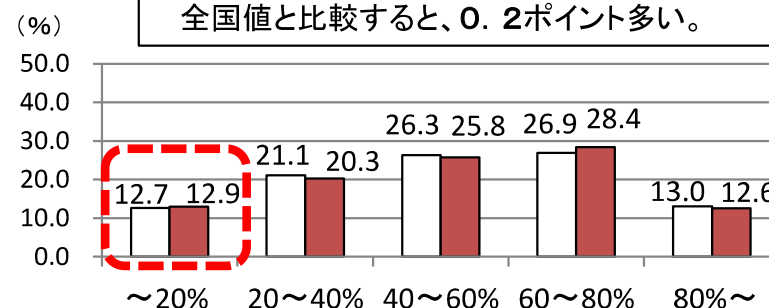
全国値と比較すると、1.0ポイント少ない。



数学

低学力層の割合の全国平均値との差

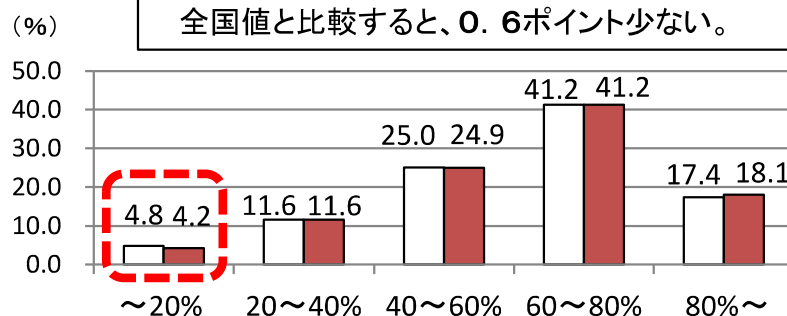
全国値と比較すると、0.2ポイント多い。



理科

低学力層の割合の全国平均値との差

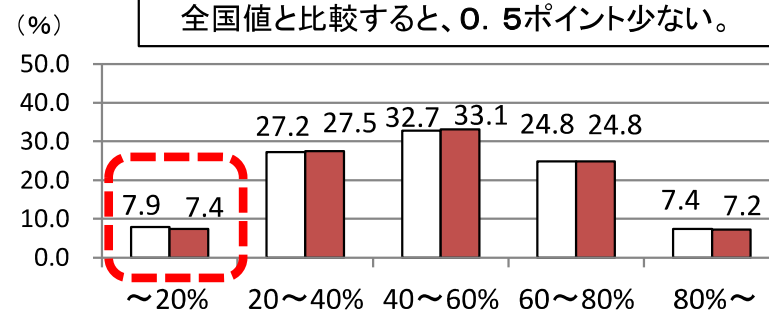
全国値と比較すると、0.6ポイント少ない。



理科

低学力層の割合の全国平均値との差

全国値と比較すると、0.5ポイント少ない。



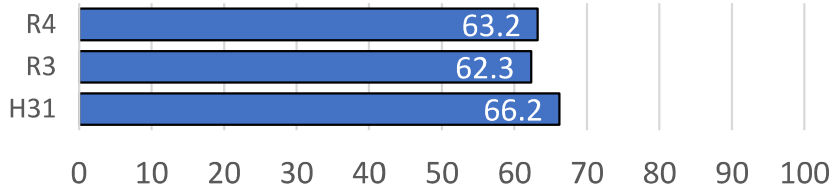
国語

◆ (小中) 「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では2.0ポイント多く、中学校では同程度となっている。

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

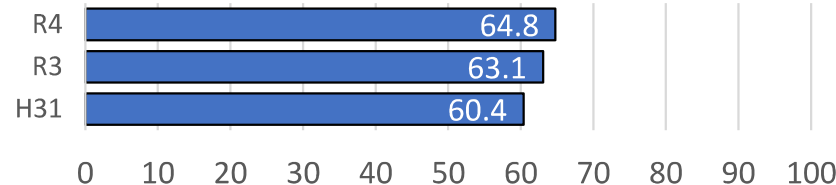
■ ① (小) 国語の勉強は好き

R4全国値: 59.2



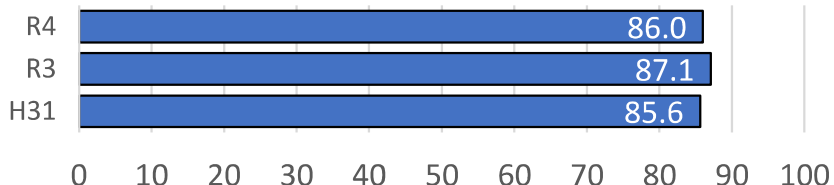
■ ① (中) 国語の勉強は好き

R4全国値: 61.9



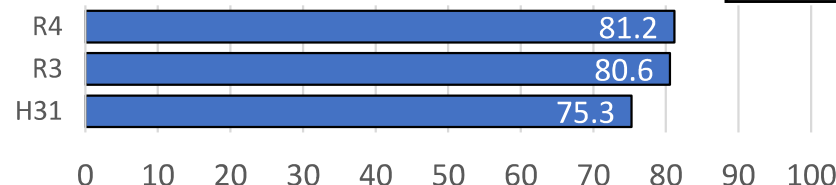
■ ② (小) 授業の内容はよく分かる

R4全国値: 84.0



■ ② (中) 授業の内容はよく分かる

R4全国値: 81.2



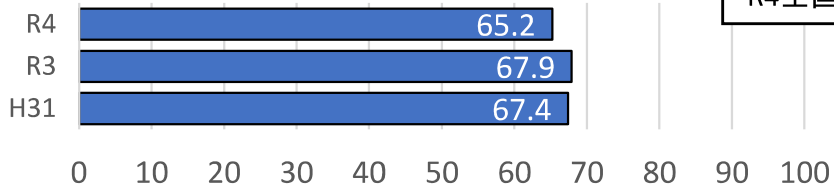
算数・数学

◆ (小中) 「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では0.9ポイント多く、中学校では4.9ポイント少なくなっている。

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

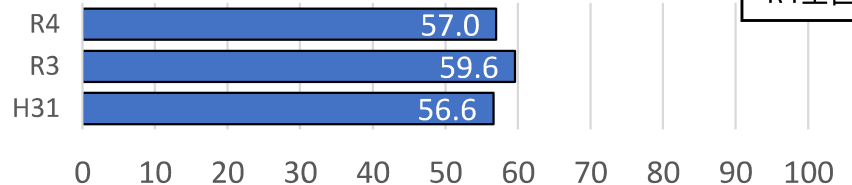
■ ③ (小) 算数の勉強は好き

R4全国値: 62.5



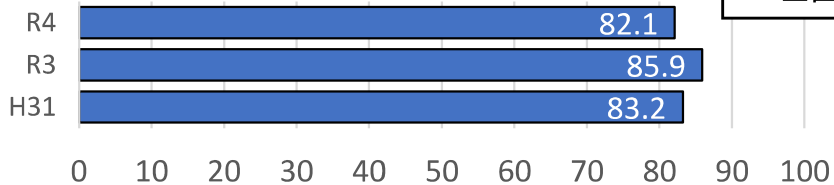
■ ③ (中) 数学の勉強は好き

R4全国値: 58.1



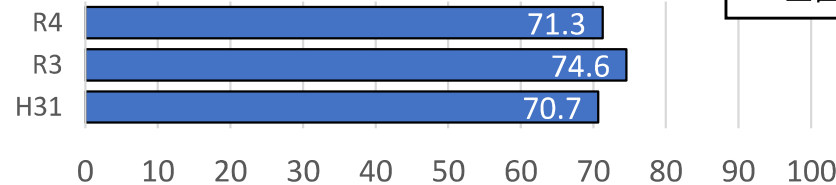
■ ④ (小) 授業の内容はよく分かる

R4全国値: 81.2



■ ④ (中) 授業の内容はよく分かる

R4全国値: 76.2



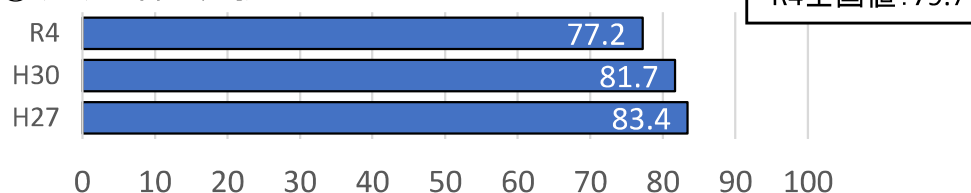
令和4年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の結果②

理科

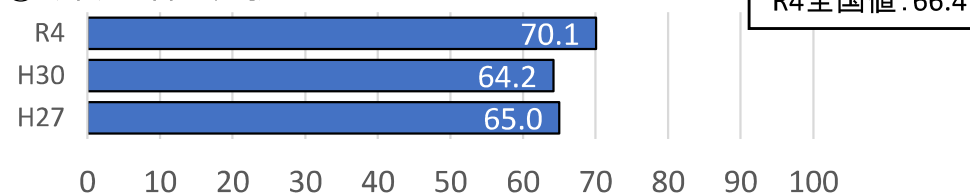
◆ (小中) 「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では0.2ポイント少なく、中学校では0.5ポイント多くなっている。

※回答=「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

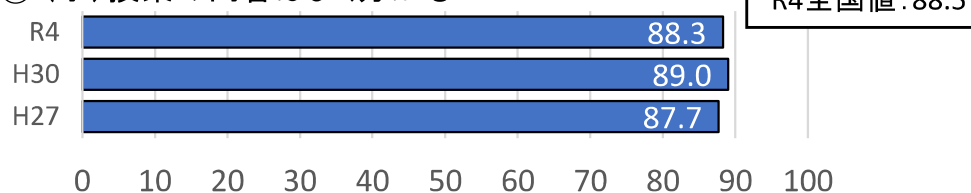
■ ⑤(小)理科の勉強は好き



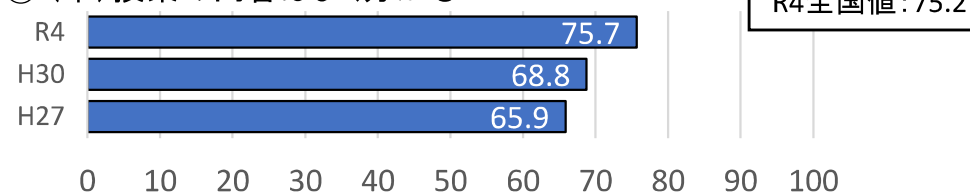
■ ⑤(中)理科の勉強は好き



■ ⑥(小)授業の内容はよく分かる



■ ⑥(中)授業の内容はよく分かる

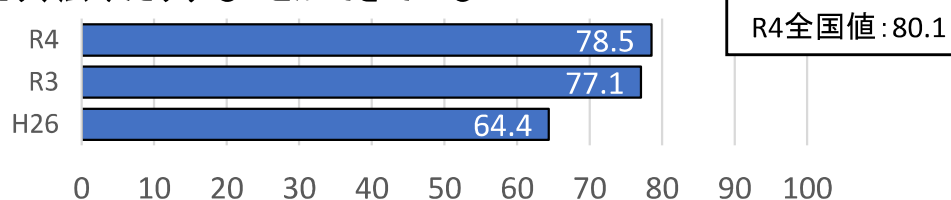


授業改善

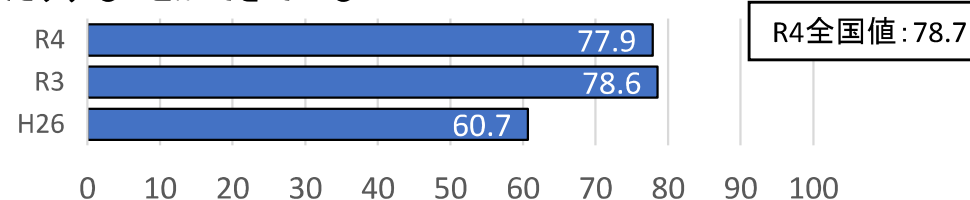
◆ (小中) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目については8割近い数値となっている。

※回答=「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

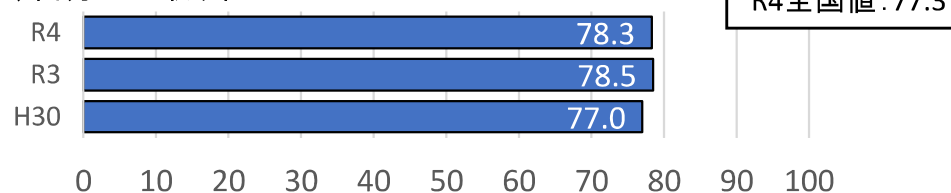
■ ⑦(小)学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



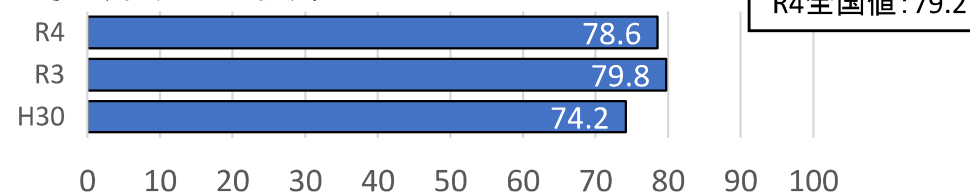
■ ⑦(中)生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



■ ⑧(小)5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



■ ⑧(中)1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



令和4年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の結果③

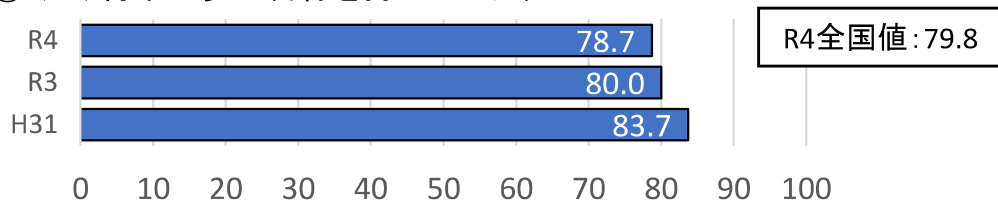
キャリア教育関係

※回答＝「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」を合算した値

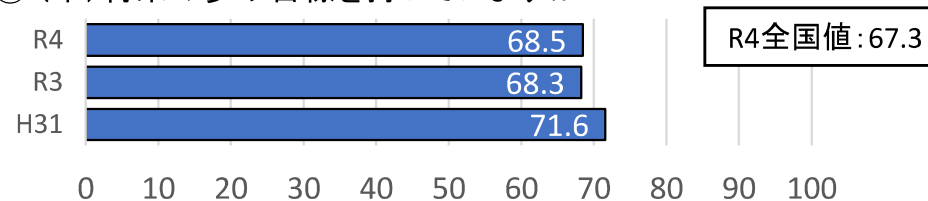
※回答＝「よくしている、時々している」を合算した値

◆ (小中) 「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒は、全国値と比較すると、小学校では1.1ポイント少なく、中学校では1.2ポイント多くなっている。経年で見ると減少傾向となっている。

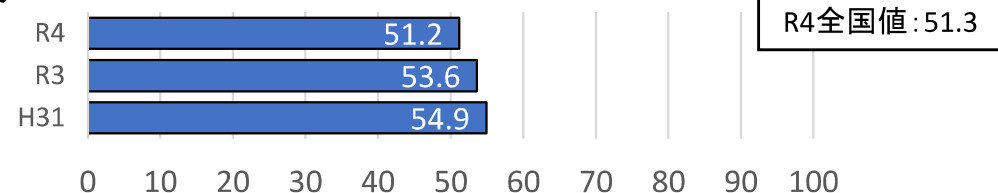
■ ⑨ (小) 将来の夢や目標を持っていますか



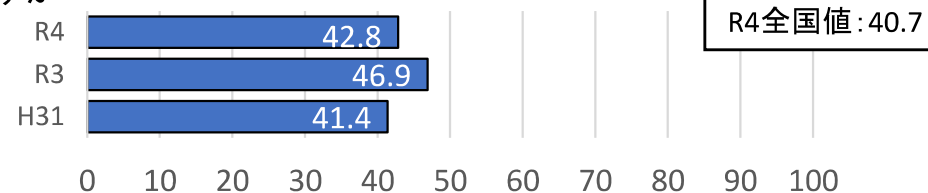
■ ⑨ (中) 将来の夢や目標を持っていますか



■ ⑩ (小) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



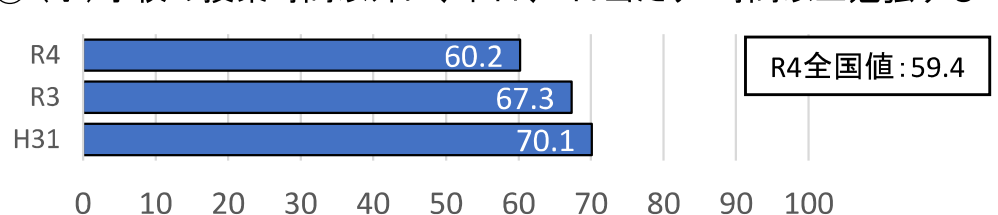
■ ⑩ (中) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



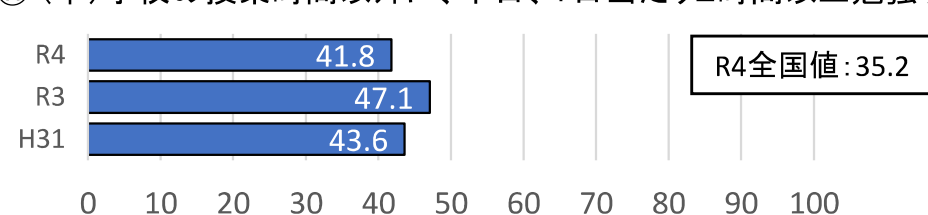
家庭学習

◆ (小中) 「家で自分で計画を立てて勉強する」と回答した児童生徒は、全国値と比較すると、小学校では0.4ポイント少なく、中学校では1.4ポイント少なくなっている。

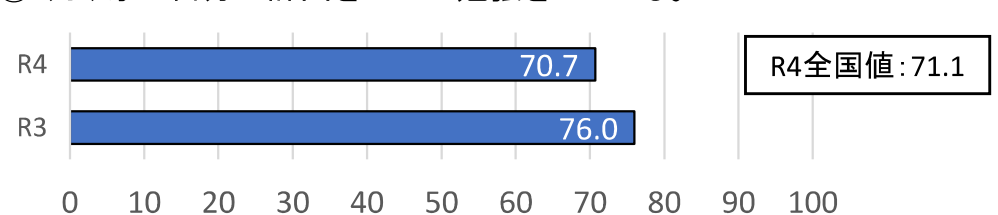
■ ⑪ (小) 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強する



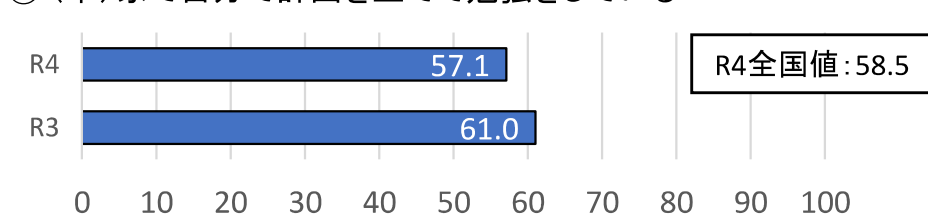
■ ⑪ (中) 学校の授業時間以外に、平日、1日当たり2時間以上勉強する



■ ⑫ (小) 家で自分で計画を立てて勉強をしている。



■ ⑫ (中) 家で自分で計画を立てて勉強をしている



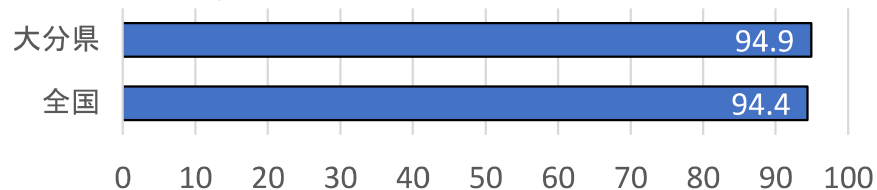
令和4年度 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の結果④

ICT活用関係

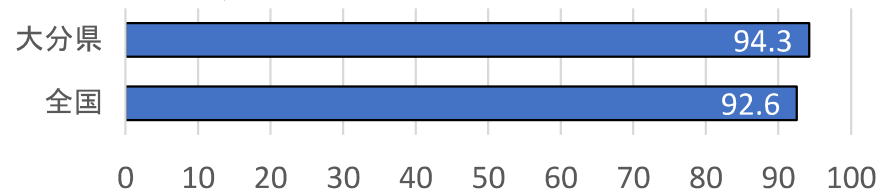
※回答＝「週1回以上」と回答した割合

- ◆ (小中) 「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答した児童生徒について、全国値と比較すると、小学校では0.5ポイント多く、中学校では1.7ポイント多い。
- ◆ (小中) 「学級の友達と意見を交換する場面」と「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」でのICT活用について、全国値と比較すると、数値が高い項目は多いが、50%程度となっている。

- ⑮(小) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

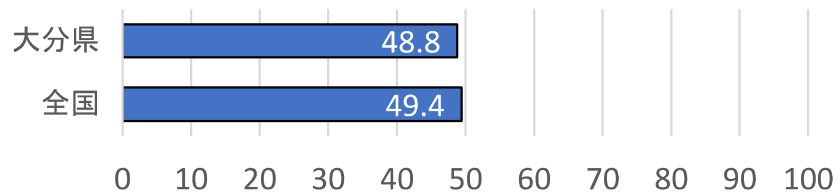


- ⑮(中) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

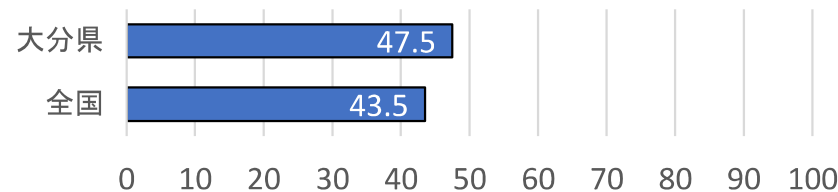


「学校において、次のような場面でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の回答について

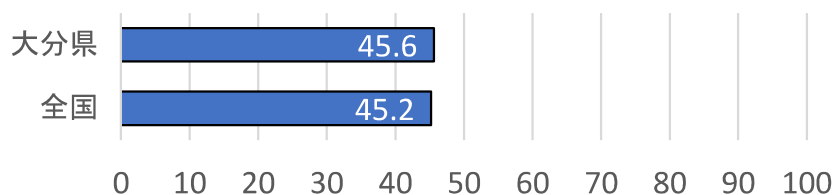
- ⑯(小) 学級の友達と意見を交換する場面で、ICT機器を、週1回以上使った。



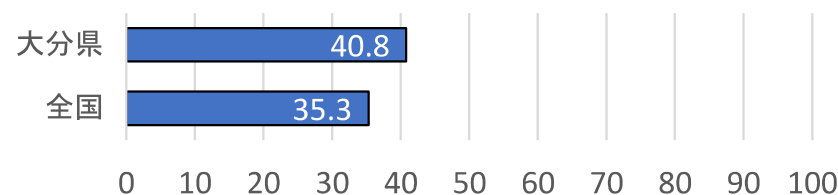
- ⑯(中) 学級の生徒と意見を交換する場面で、ICT機器を、週1回以上使った。



- ⑰(小) 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、ICT機器を、週1回以上使った。



- ⑰(中) 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、ICT機器を、週1回以上使った。



令和4年度 全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査の結果

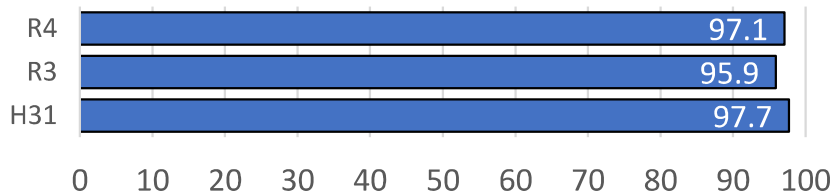
学校組織

※回答＝「よくしている」「どちらかといえばしている」

◆ (小中) 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した学校について、全国値と比較すると、小学校では2.9ポイント多く、中学校では4.2ポイント多くなっている。

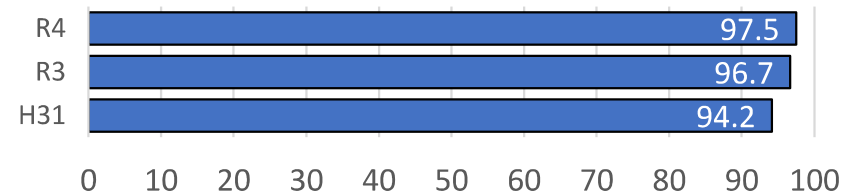
- ⑬(小) 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

R4全国値:94.2



- ⑬(中) 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

R4全国値:93.3



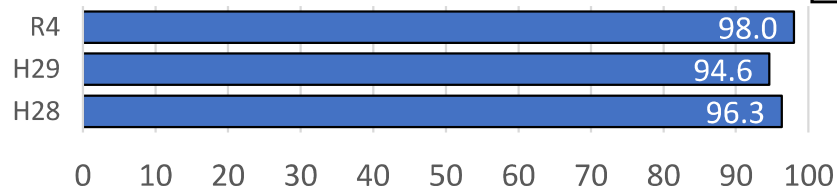
授業改善

※回答＝
「そう思う、どちらかといえばそう思う」を合算した値
「よく行なった、どちらかといえば行なった」を合算した値

◆ (小中) 「授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」と回答した学校について、全国値と比較すると、小学校では1.2ポイント多く、中学校では2.1ポイント多くなっている。
◆ (小中) 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答した学校について、全国値と比較すると、小学校では1.7ポイント多く、中学校では1.2ポイント多くなっている。

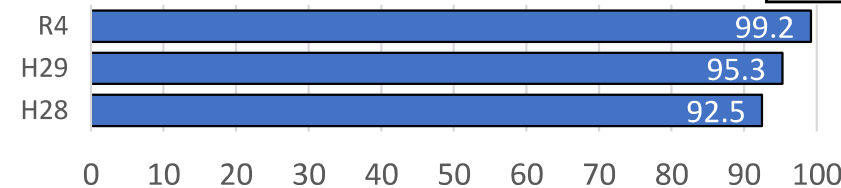
- ⑭(小) 授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした

R4全国値:96.8



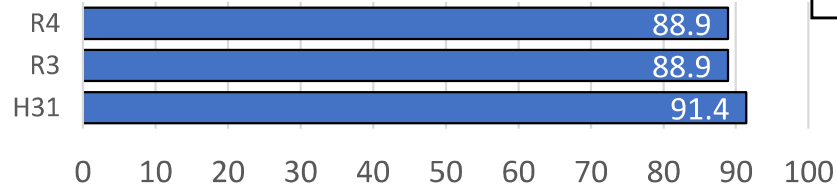
- ⑭(中) 授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした

R4全国値:97.1



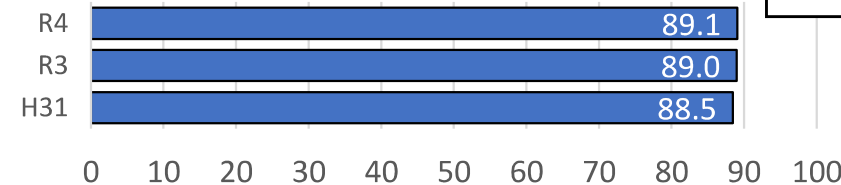
- ⑮(小) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

R4全国値:87.2



- ⑮(中) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

R4全国値:87.9



結果分析

(学力調査結果及び「質問紙調査から見える現状」より)

- 小・中学校ともに、新大分スタンダードに基づいた授業改善により、児童生徒は一定程度の学力を身に付けている。
- ▲低学力層の割合は、小学校では標準を維持しているものの、中学校では増加している教科も見られる。低学力層の児童生徒に対する手立てを講じた授業改善を一層進める必要がある。

(「質問紙調査結果から見える児童生徒の現状」より)

- 質問項目全体を通じて、コロナ禍における環境変化に伴う大きな影響は見られない。
- ▲「将来の夢や目標を持っている」に対する回答について、経年で見ると減少傾向にある。キャリア教育の充実を図るとともに、自主的・実践的な学習活動を工夫する必要がある。
- ▲家庭学習に関する項目において、経年で見ると減少傾向にある。授業と家庭学習を効果的に連動させた学習指導が必要である。

今後の取組(大分県教育委員会)

1. 「新大分スタンダード」を意識した単元構想による授業改善

- ①「授業づくりハンドブック」(R2 大分県教育委員会)「早わかり! 単元計画の作成手順」(R2 大分県教育委員会)を活用した実践や研修の充実
- ②習熟の程度に応じた指導の一層の充実
- ③生徒指導の3機能を意識した授業の実践
- ④1人1台端末の効果的な活用等による指導方法・指導体制の工夫改善
- ⑤「授業力向上アドバイザー」による経験年数の浅い教員への指導支援
- ⑥小学校高学年における教科担任制の推進
- ⑦小・中学校英語教育推進校を核とした英語指導力の向上と普及

2. 特別活動や体験的な学習の保障

- ①児童生徒自らが、自分のよさや成長を実感できる活動や振り返りの工夫
・ふるさと学習交流会 ・OTA仕事発見夢発見
- ②キャリア・ノートを活用した「目標をもって生きる意欲や態度」の育成

令和4年度全国学力・学習状況調査

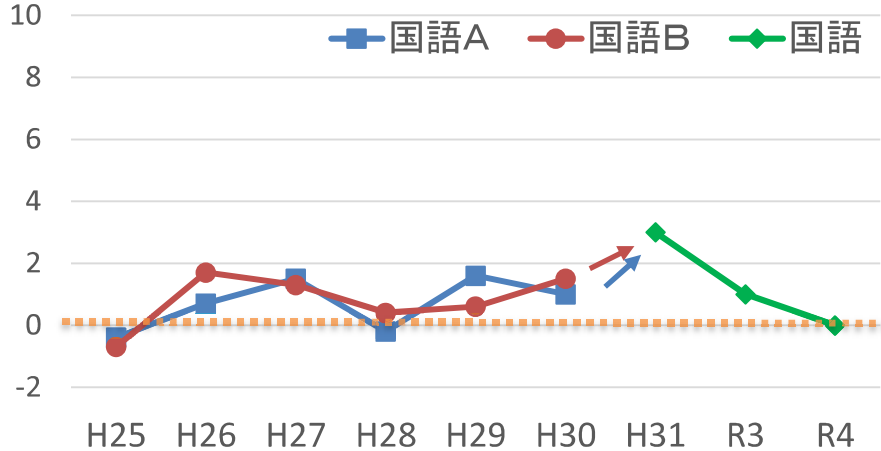
教科に関する調査の分析資料

小学校国語

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均並みである。

2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.0	69.0
(2) 情報の扱い方に関する事項	対象問題数0のため数値なし	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.1	77.9
A 話すこと・聞くこと	65.3	66.2
B 書くこと	49.1	48.5
C 読むこと	65.1	66.6

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」で、全国平均を上回る。

▲「話すこと・聞くこと」「読むこと」で、全国平均を下回る。

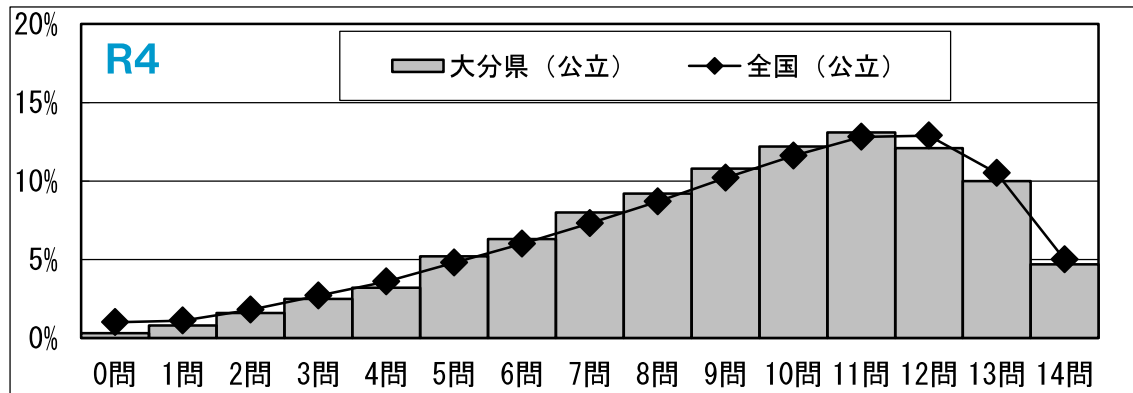
3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	72.2	70.5
思考・判断・表現	61.2	62.0

○「知識・技能」の観点は全国平均を上回る。
▲「思考・判断・表現」の観点は全国平均を下回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
▲正答数が全国平均以上(9問以上)の児童は62.9%であり、全国値63.0%を下回る。

4 正答数度数分布



小学校国語

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問1 設問四 【平均正答率 大分県45.8% 全国 47.7%】
互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題。

話し合いの様子の一部

岡さん：こうして、みなさんの意見を聞いて、どれも公園を...にするためのアイデアです。今までの話し合いで、アイデアについて、よい点と問題点を分けて「メモ」をしてみました。

中村さん：私は、公園がよくなるので、ベンチをぬり直そうかなと考えました。できるかどうかは分からないという問題点については、公園を管理している人や家の人と相談するとよいと思います。

岡さん：みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、

岡さんのグループでは、学校近くの公園をきれいにしてくさんの人に気持ちよく使ってもらうためのアイデアを出し合っている。

【話し合いの様子の一部】を読み、自分が「岡さん」ならどのように話すかを考え、条件に従って書く。

<条件>
○「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び(立場を明確にする)、その問題点の解決方法を考えて書く。
○【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書く。
○50字以上80字以内で書く。

(メモ)	
アイデア	問題点
ごみ拾い	○ごみがなくなる
花植え	△話せることがむずかしい ○はなやかに
ベンチぬり	△話せることがむずかしい ○明るくなる

調査結果から見える児童の実態

【誤答例】※反応率が最も高かったもの

- ・公園に花を植えたらいいと思います。理由は、公園をはなやかにすれば、みんなも花から元気をもらえるからです。
- ▲【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げているが、選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない。



この設問では、岡さんが「取り組みやすいという理由で」と既に述べているため、改めて理由を述べる必要はない。このような解答から、以下のような児童の実態が考えられる。

- 問題点を捉えることはできたが、それを踏まえた自分の考えをまとめることができなかった
- 話し合いの目的を意識しておらず「意見を言った後に理由を言う」という学習経験をもとに解答してしまった

指導の改善

【学習指導のポイント】

指導に当たっては、①話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること ②話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること ③様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

【指導例】教師が作成したモデル文を教材として、考えのまとめ方を理解させる。

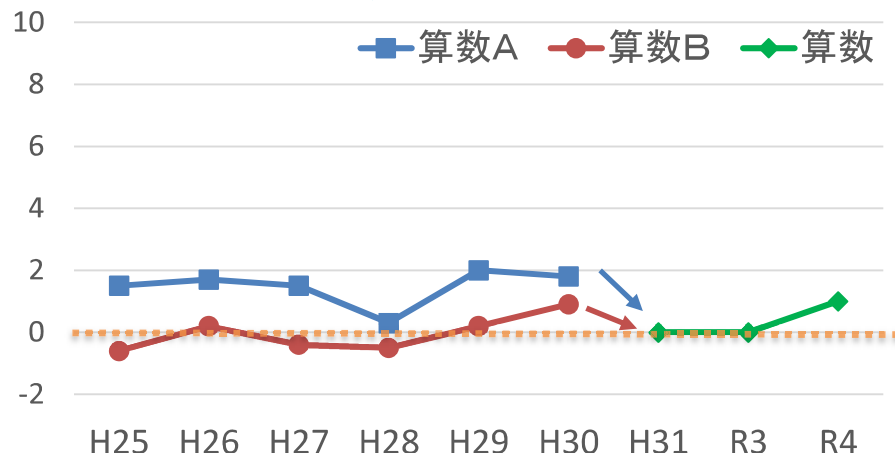
<話し合いの展開を踏まえていないモデル文>
みなさんのアイデアや「メモ」から、取り組みやすいという理由で、私は、公園に花を植えたら良いと思います。例えばチューリップや朝顔がきれいだから良いと思います。(▲問題点に触れていない)

小学校算数

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回った。

2 領域別の結果

学習指導要領の領域	県	全国平均
A 数と計算	70.7	69.8
B 図形	64.4	64.0
C 測定	対象問題数0のため数値なし	
C 変化と関係	51.4	51.3
D データの活用	68.8	68.7

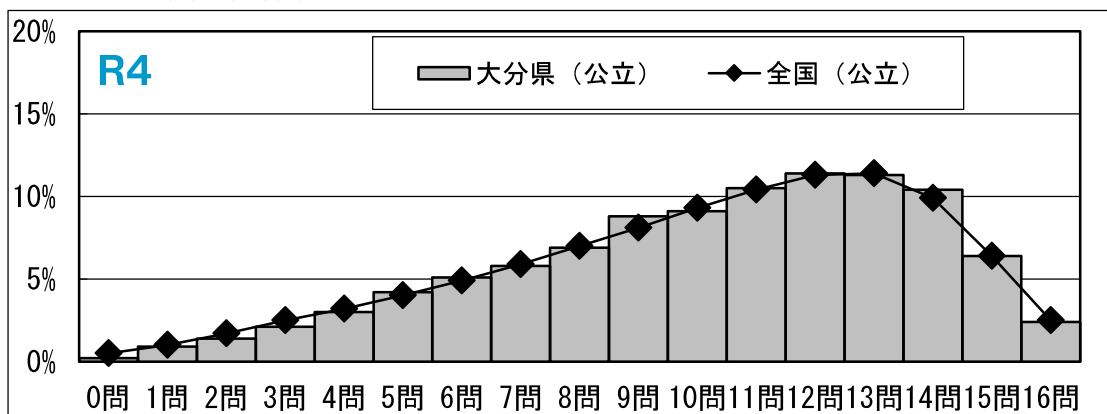
○全領域で全国平均を上回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	68.8	68.2
思考・判断・表現	57.2	56.7

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点で全国平均を上回る。

4 正答数度数分布



○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童は61.5%であり、全国値61.2%を上回る。

小学校算数

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問1(4) 【大分県平均正答率32.9%】
日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることができるかどうかをみる問題。

(4) カップケーキが1個入り85円でも売られています。
くるみさんは、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、Bセット1箱分の値段である1470円を比べることにしました。



1個入り85円のカップケーキ21個分の値段は、 85×21 で求めることができます。

くるみ 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることは、 85×21 をそのまま計算せずに、85と21をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 85 を小さくみて80、 21 を小さくみて20として計算します。
- イ 85 を小さくみて80、 21 を大きくみて30として計算します。
- ウ 85 を大きくみて90、 21 を小さくみて20として計算します。
- エ 85 を大きくみて90、 21 を大きくみて30として計算します。

解答類型		県	全国
正答	ア と解答しているもの	正答率 32.9%	正答率 34.8%
誤答例	ウ と解答しているもの 85と21をそれぞれ一の位の数を四捨五入し、十の位までの概数にして計算するとよいと考え、目的に合った概数にして計算する方法を選ぶことができていないと考えられる。	反応率 52.6%	反応率 49.8%
	エ と解答しているもの 「必ず大きくなる」という言葉から、85と21をそれぞれ一の位の数を切り上げて十の位までの概数にして計算するとよいと考え、目的に合った概数にして計算する方法を選ぶことができていないと考えられる。	反応率 8.9%	反応率 9.3%

指導の改善

【学習指導のポイント】

目的に合った数の処理の仕方考えることができるようにする。

○ 日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。

その際、切り上げ、切り捨て、四捨五入のどの方法が適切であるかを判断できるようにすることが大切である。

○ 指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、Bセット1箱分の1470円では、どちらの方が高いかを予想し、確かめる活動が考えられる。

85×21 の85と21を概数にして見積もる際には、概数にして計算した結果と、実際の数の積との大小関係について、数直線を使って話し合うなどの活動が考えられる。



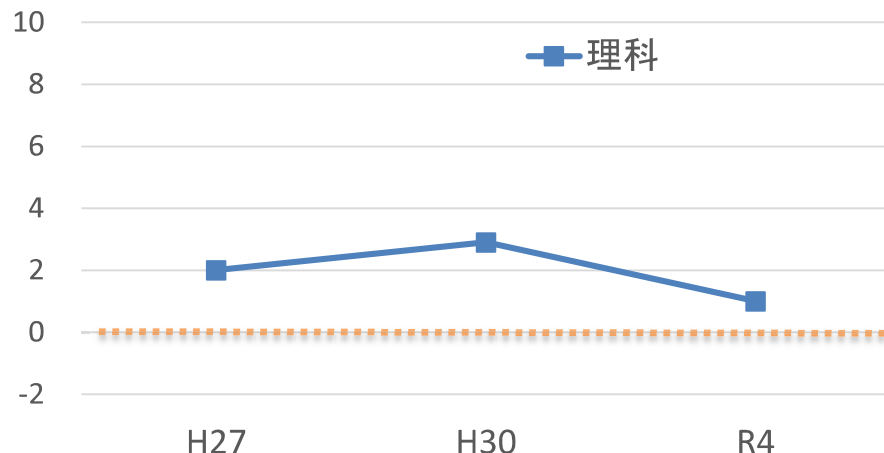
「切り捨て」では、 85×21 が 80×20 となり、被乗数と乗数が実際の数より小さくなるため 80×20 は 85×21 よりも必ず小さくなる。

小学校理科

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回った。

2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
エネルギーを柱とする領域	51.9	51.6
粒子を柱とする領域	61.6	60.4
生命を柱とする領域	73.9	75.0
地球を柱とする領域	66.9	64.6

○「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「地球を柱とする領域」で、全国平均を上回る。

▲「生命を柱とする領域」で、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

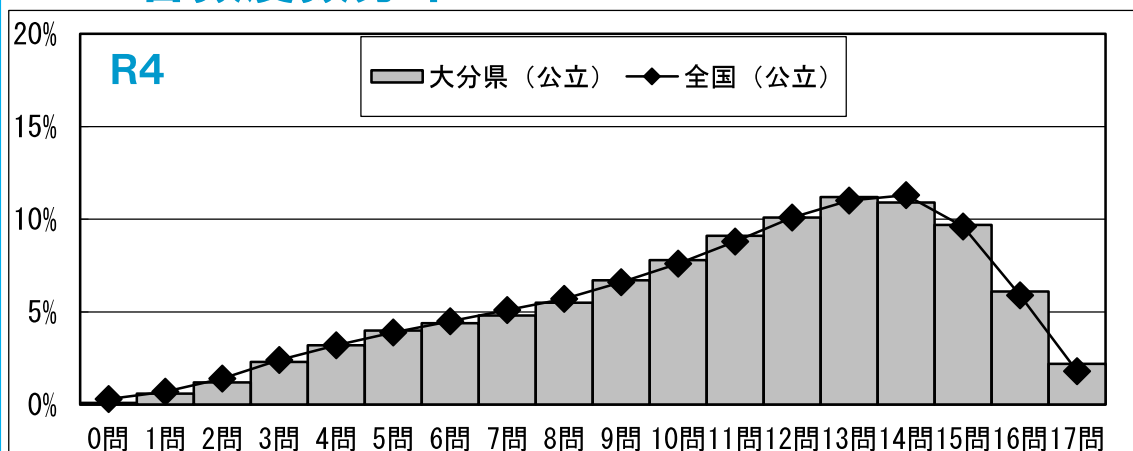
観 点	県	全国平均
知識・技能	64.1	62.5
思考・判断・表現	63.8	63.7

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点は全国平均を上回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。

○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童は67.1%であり、全国値66.1%を上回る。

4 正答数度数分布



□ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問2 (4) 【平均正答率 大分県38.4% 全国39.3%】

自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。

水をこおらせた物は、紅茶にうくのくに、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

たろうさん

水をこおらせた物 砂糖水をこおらせた物

水に入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

りかさん

砂糖水をこおらせた物だから、水にしずむのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさん

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。
はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

【正答例】ほかの水よう液をこおらせた物は、水にしずむのだろうか。

【誤答例】なぜ、砂糖水をこおらせたものは水にしずむのか。

※水溶液を凍らせた物を対象として、液体に沈む、浮く現象自体を問うことを示す内容で記述している。(大分県7.7% 全国8.3%)

指導の改善

【学習指導のポイント】

自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする。

- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようになるためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。

問題を見いだす力の学習指導に当たって ～「なぜ(どうして)」が出てきたら～

問題を見いだす力の学習指導では、複数の自然の事物・現象に働きかけて得た事実を比較しながら、主に差異点や共通点に基づいて、児童個人が問題を見だし、それを基に学級全体で解決する問題を設定することが考えられる。

その際、児童が「なぜ(どうして)」を含んだ表現をすることがあり、これを学級全体の問題として設定すると、解決が困難になることがある。

例えば、予想や仮説は実証が困難なものがあったり、たとえ実証できても、この問題が解けたかどうか決めることが難しかったりして、結論を導きだすことができない場合があることも考えられる。

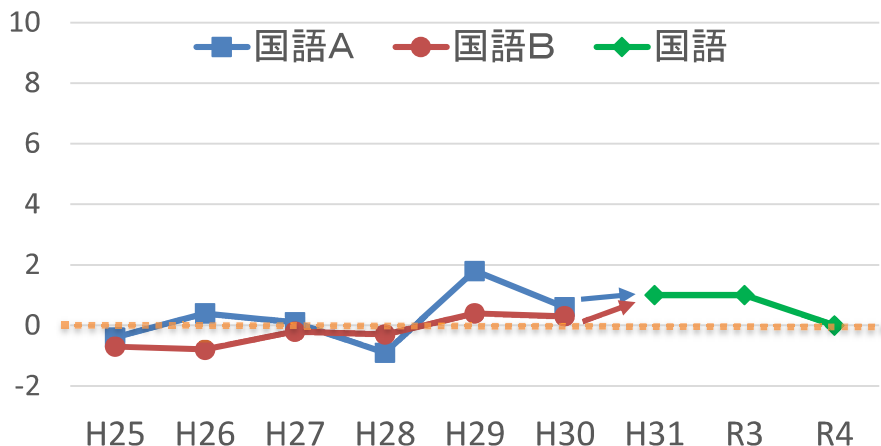
そこで、学習指導に当たっては、児童から「なぜ(どうして)」が表出された際は、児童が調べたいことに着目し、観察、実験を行うことなどを通して、科学的に解決していくことができると考えられる問題を設定できるようにすることが大切である。

中学校国語

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均並みである。

2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	72.2
(2) 情報の扱い方に関する事項	47.9	46.5
(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.6	70.2
A 話すこと・聞くこと	63.7	63.9
B 書くこと	47.9	46.5
C 読むこと	67.5	67.9

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均を上回る。
 ▲「話すこと・聞くこと」「読むこと」で、全国平均を下回る。

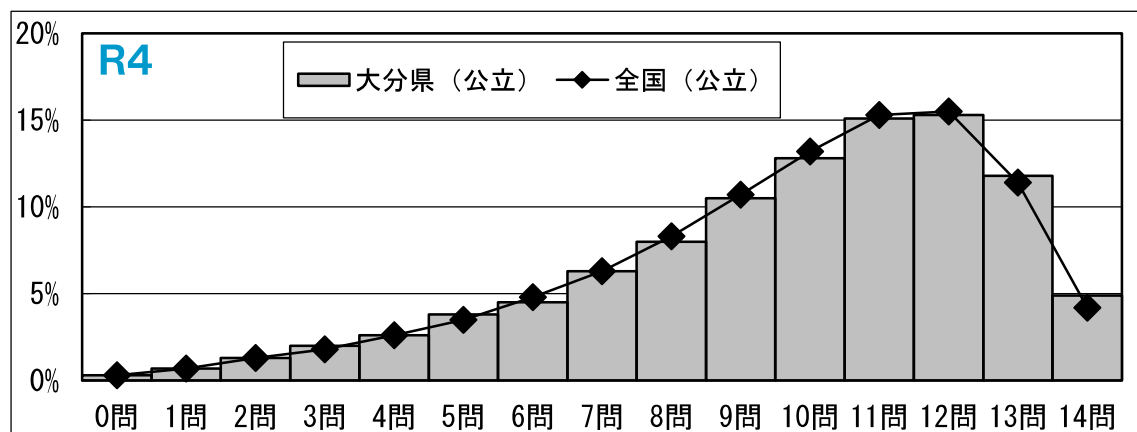
3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	69.5	69.0
思考・判断・表現	62.3	62.3

○「知識・技能」の観点は全国平均を上回る。
 ▲「思考・判断・表現」の観点は全国平均並み。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)は全国平均並み。
 ○正答数が全国平均以上(9問以上)の生徒は70.4%であり、全国値70.3%を上回る。

4 正答数度数分布



中学校国語

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

□ 課題が見られた問題と指導の改善 正答率が低かった問題

大問1 設問3 【平均正答率 大分県51.4% 全国51.8%】
【無解答率 大分県16.1%】

自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる問題。


川口 川口さんは、最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいる。動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて助言をもらっている。

田中 川口さんが伝えたい内容、スピーチの冒頭から同じ調子、言葉の抑揚や強弱、間の取り方してはどうでしょうか。インで離れた場所にいる人と会話する部分、伝えたい内容に関係なく聞き手に関心をもってもらうため、大きな声で話すことではないでしょうか。

川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

田中さんの助言を受け、川口さんは「ほかの部分も話し方を工夫する」ことにした。自分ならどの部分をどのように工夫して話すか考え、条件に従って書く。

<条件>
(1) スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。
(2) (1)のように話す意図を書くこと。



田中さん 川口さん

調査結果から見える生徒の実態

無解答率が高いことや反応率が高かった具体例から、以下に示すような実態が考えられる。

- ▲話し方を工夫する意図を明確にすることに課題がある。
- ▲具体的な話し方の工夫について考えることに課題がある。
- ▲工夫して話す部分を具体的に取り上げることに課題がある。

指導の改善

【学習指導のポイント】

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。また、指導に当たっては、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。

〔指導例〕(全3時間)

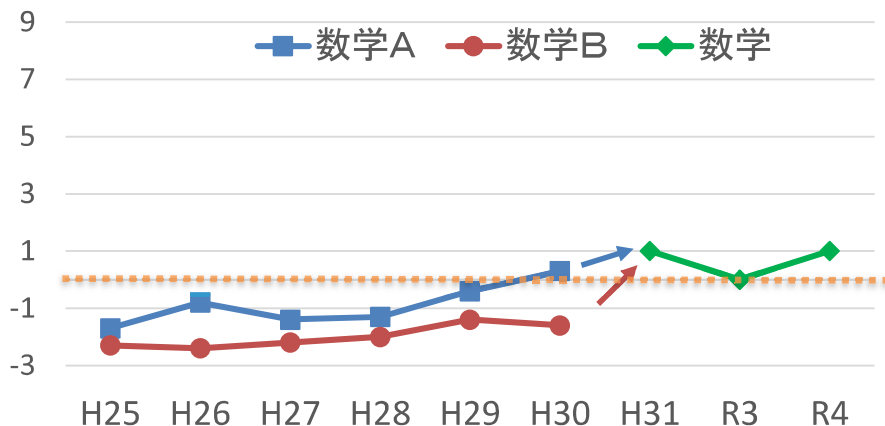
学習の流れ	
1	① 学習の見通しをもつ。 ② スピーチの内容を考える。 ③ 各自で実際にスピーチを行い、その様子を動画に記録する。
2	④ 教師が提示したスピーチの内容を基に、表現の工夫について考える。 ⑤ 考えた工夫とその意図を伝え合い、実際に声に出して示しながら交流する。 ⑥ ③で録画したスピーチを見ながら、表現の工夫を考える。
3	⑦ グループで聞き会い、表現の工夫によって自分の考えが分かりやすく伝わったかを確認する。 ⑧ 学習を振り返る。

中学校数学

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回った。

2 領域別の結果

領域	県	全国平均
A 数と式	60.9	57.4
B 図形	40.9	43.6
C 関数	41.9	43.6
D データの活用	56.6	57.1

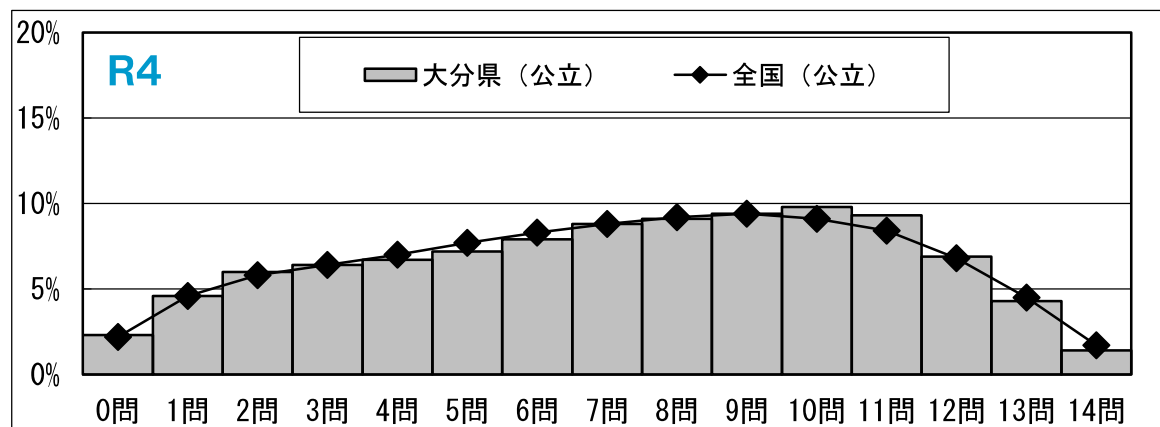
○「数と式」の領域で全国平均を上回る。
 ▲「図形」「関数」「データの活用」領域は全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観点	県	全国平均
知識・技能	60.8	59.9
思考・判断・表現	35.0	36.2

○「知識・技能」の観点では全国平均を上回る。
 ▲「思考・判断・表現」の観点では、全国平均を下回る。
 ▲低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より多い。
 ○正答数が全国平均以上(7問以上)の生徒は59.0%であり、全国値57.9%を上回る。

4 正答数度数分布



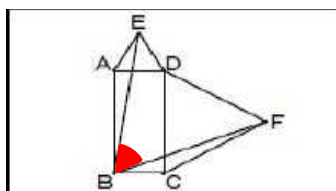
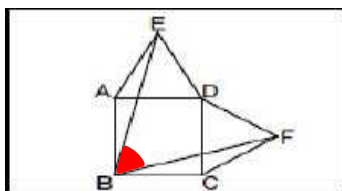
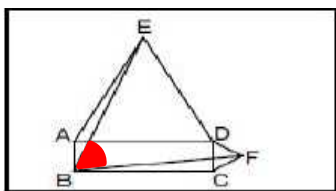
課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問9 (2) 【大分県平均正答率8.9% 大分県無解答率39.2%】
筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題。

問題の概要

∠ABEと∠CBFの和が 30° になる理由を示し、
∠EBFの大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。



解答類型

(正答の条件)		(正答例)	【正答率 県:8.9% 全国:12.5%】	
次の(a)、(b)、(c)について記述しているもの。 (a) $\angle AEB = \angle CBF$ (b) $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ (c) $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$		$\triangle ABE \cong \triangle CFB$ より、合同な図形の対応する角は等しいので、 $\angle AEB = \angle CBF$① $\triangle ABE$ において、三角形の内角の和は 180° で、 $\angle EAB = 150^\circ$ であるから、 $150^\circ + \angle ABE + \angle AEB = 180^\circ$ $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$② ①、②より、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ したがって、 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和は 30° になる。		
誤答例	①	(c)についての記述が不十分なもの。 $\angle EAB = 150^\circ$ よって、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ 等	県反応率 10.2%	全国反応率 8.5%
	②	根拠に、結論の $\angle EBF = 60^\circ$ を用いているもの。	県反応率 4.5%	全国反応率 4.3%
	無解答		県39.2%	全国38.5%

指導の改善

【学習指導のポイント】

ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明できるようにする。

○ 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明できるように指導することが大切である。

○ 本設問を使って授業を行う際には、コンピュータなどを利用して、長方形ABCDの辺の長さを変えた図を観察し、∠EBFが 60° になることを予想する場面を設定することが考えられる。

その上で、∠EBFが 60° になることを示すためには、∠ABEと∠CBFの和が 30° になることがいければよいといった構想を立て、「∠ABEと∠CBFの和は 30° になるか。」と焦点化して考察を進めることが考えられる。

1人1台端末を用いて、長方形の大きさや形を変えた図形を観察する場面(例)

線分EB、BFは、長くなったり短くなったりしているけれど、等しいね。

∠EBFの大きさは、だいたい 60° かな。



∠EBFの大きさは変わらないようだよ。

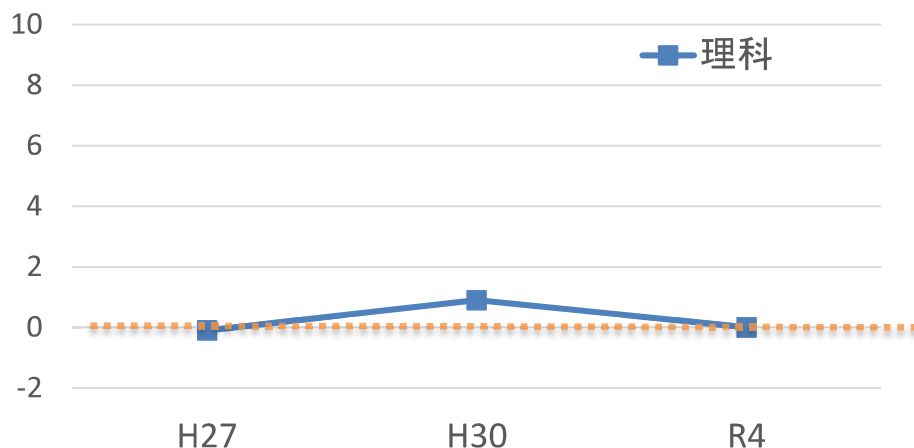
∠EBFの大きさは 60° で変わらないと、いいのかな。

中学校理科

令和4年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均並みである。

2 領域別の結果

領域	県	全国平均
エネルギーを柱とする領域	41.8	41.9
粒子を柱とする領域	52.5	50.9
生命を柱とする領域	56.7	57.9
地球を柱とする領域	44.5	44.3

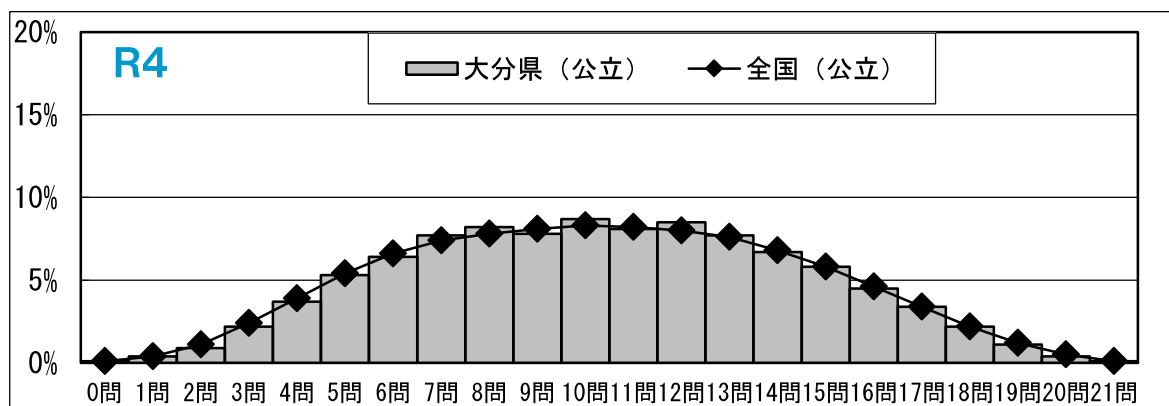
- 「粒子を柱とする」「地球を柱とする」の領域で、全国平均を上回る。
- ▲「エネルギーを柱とする」「生命を柱とする」の領域で、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

領域	県	全国平均
知識・技能	47.2	46.1
思考・判断・表現	50.6	51.0

- 「知識・技能」の観点では全国平均を上回る。
- ▲「思考・判断・表現」の観点では、全国平均を下回る。

4 正答数度数分布



- 低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
- 正答数が全国平均以上(10問以上)の生徒は57.2%であり、全国値56.7%を上回る。

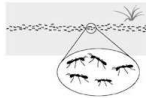
□ 課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

大問8 (1) 【平均正答率 大分県52.8% 全国55.2%】

アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。

8 『ファール昆虫記』を読んで、アリの行列のつくり方に興味をもち、科学的に探究しました。
(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



レポートの一部

【課題1】

アリは、視覚による情報をもとに行列をつくるか。

【実験1】

① 図のように行列を覆い、10分間まわりの景色を見えなくする。

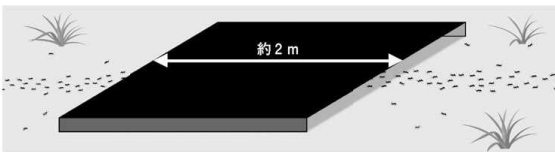
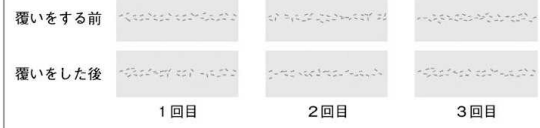


図 覆いをしたようす

② 覆う前後の行列のようすを写真に撮り、比較する。
③ ①と②の操作を別のアリの行列で3回繰り返す。

【結果1】

6月9日(13時から15時) 場所：中央公園



【考察1】

この実験の結果からは、アリの行列のようすは ので、 と考えられる。

(1) 、 に当てはまる適切な言葉をそれぞれ書きなさい。

【正答例】

: 変化しない

: 視覚による情報をもとに行列をつくらない

【誤答例】

: 変化しない

: 視覚の情報をもとに行列をつくっている

※行列が変化しないことは読み取れているが、課題に正対したQの部分が不十分であり、実験の結果を分析して解釈することができていない。
(大分県26.7% 全国24.6%)

指導の改善

【学習指導のポイント】

実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるようにする

○観察、実験の結果を分析して解釈する上で、課題で明らかにしようとしていることは何かを意識して考察することが大切である。

○指導に当たっては、本問のように、アリの行列のつくり方に問題を見いだして設定した課題と考察が正対しているか、考察の根拠は明確かなどの検討を促す学習場面を設定することが考えられる。

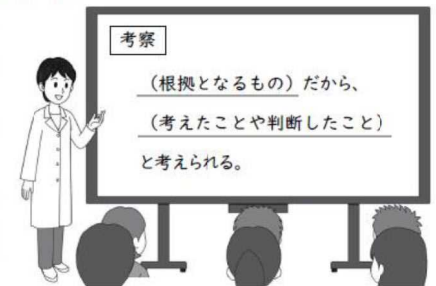
○その際、具体例を示しながら根拠を基に考察を繰り返すことで、課題に正対した考察を行うことができるようになることが期待できる。

学習場面の例

＜具体例を示し考察する学習活動を繰り返す＞

課題に正対した考察を行うために、「根拠となるもの」を書く部分と課題を意識して「考えたことや判断したこと」を書く部分を空欄にした具体例を示し、両者を区別しながら記述する学習活動を行うことが考えられる。

課題に正対した考察を行うことができるようになるまでは、全ての領域で繰り返し、取り組むことが大切である。



令和4年度大分県学力定着状況調査結果

調査結果

令和4年8月5日(金)
大分県教育庁義務教育課

令和4年度 大分県学力定着状況調査結果

資料1

1 調査の概要

(1) 調査期日 令和4年4月26日(火)

(2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数)

※調査期日当日に調査を実施した人数。後日調査を実施した人数(小学校2校3学級91人、中学校4校4学級122人)は含まない。

〔小学校5年生〕 8,662人(247校)

【市町村立】小学校・義務教育学校, 【県立】(調査対象児童が在籍する)特別支援学校, 【国立】附属小学校, 【私立】明星小学校

〔中学校2年生〕 8,345人(124校)

【市町村立】中学校・義務教育学校, 【県立】豊府中学校, (調査対象生徒が在籍する)特別支援学校, 【国立】附属中学校, 【私立】明豊中学校, 向陽中学校, 大分中学校

(3) 調査内容 児童生徒に対して、学習到達度調査(「知識」及び「活用」)と総合質問紙調査を実施。

2 結果の概要(教科別偏差値平均)

対象児童	小学校5年生(国立・県立・私立を含む)						合計
	国語		算数		理科		
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	
R4県全体	51.4	51.9	53.0	52.5	51.5	51.0	311.3
R3県全体	51.4	52.2	52.2	51.8	51.5	50.5	309.6

対象生徒	中学校2年生(国立・県立・私立を含む)										合計
	国語		数学		理科		英語		社会		
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	
R4県全体	51.6	51.5	51.7	50.6	51.1	51.1	50.4	50.3	50.9	50.3	509.5
R3県全体	52.0	51.4	51.6	51.0	51.5	51.0	50.9	50.7	51.5	50.6	512.2

教科別偏差値の推移【H16～R4】(市町村立学校)

資料2

■全ての教科・区分において、偏差値50を超えた学校
 小学校 113校/ 244校(46.3%) ※R3 104校/248校(41.9%)
 中学校 25校/ 118校(21.2%) ※R3 23校/118校(19.5%)

		小学校5年生						中学校2年生									
		国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語		社会	
		知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
大分県学力定着状況調査	R4	51.3	51.9	52.9	52.4	51.4	50.9	51.4	51.2	51.4	50.3	50.9	50.8	50.0	50.0	50.7	50.0
	R3	51.3	52.1	52.1	51.7	51.4	50.5	51.8	51.1	51.4	50.6	51.2	50.6	50.5	50.2	51.3	50.3
	R1	52.1	51.6	52.2	52.1	52.2	51.3	51.8	50.5	50.7	50.6	50.9	50.5	50.3	50.3	50.5	50.3
	H30	51.7	51.1	51.8	51.5	51.6	51.1	52.0	50.4	51.3	50.2	50.7	49.9	50.7	50.6	50.9	49.7
	H29	51.5	51.1	51.5	51.7	51.9	51.2	50.9	49.8	50.3	50.3	50.8	50.2	50.0	49.8	50.5	49.5
	H28	52.5	51.6	52.4	52.4	52.1	51.1	51.3	49.8	50.3	50.4	51.4	50.6	49.9	50.2		
	H27	51.6	50.5	52.3	52.4	52.1	51.3	51.0	49.4	51.0	50.5	50.6	50.5	49.9	49.9		
	H26	51.4	52.2	52.0	51.9	52.0	51.3	50.6	50.5	51.3	50.5	52.7	51.5	50.3	50.3		
	H25	51.4	50.2	52.0	51.7	50.9	50.7	50.5	49.9	50.8	50.3	50.2	49.7	48.9	49.5		
基礎・基本の定着状況調査	H24	50.2		51.3		49.1		50.2		50.5		50.5		49.6			
	H23	49.5		50.4				50.5		51.1				50.4			
	H22	49.5		49.8				49.5		50.4				50.1			
	H21	49.4		49.8				49.6		49.9				50.1			
	H20	49.6		50.2				49.8		49.8				49.6			
	H19	49.5		49.9				49.7		50.4				50.2			
	H18	48.6		49.9				51.0		49.7				51.5			
	H17	48.6		49.6				49.9		49.9				49.9			
	H16	48.0		49.9				49.8		50.2				49.3			

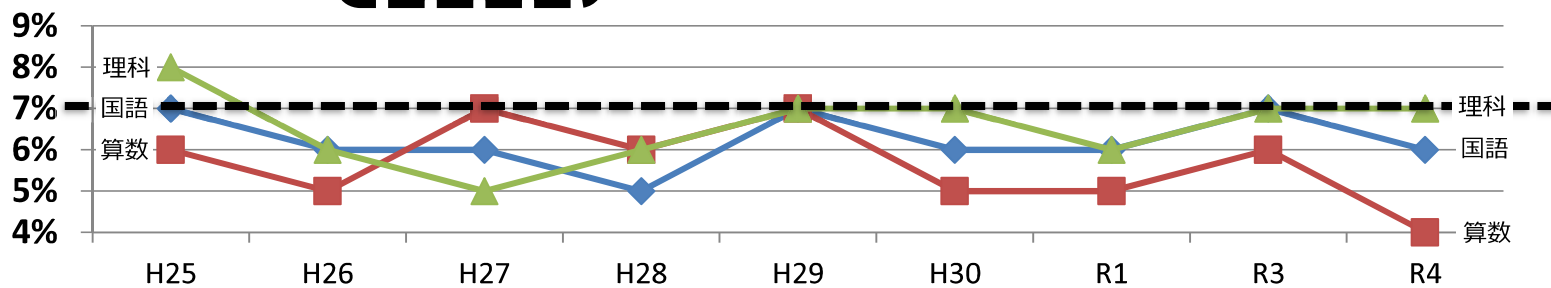
偏差値の5段階分布と低学力層の推移(市町村立学校)

資料3

※偏差値 … 知識と活用の偏差値を総合した教科全体の偏差値

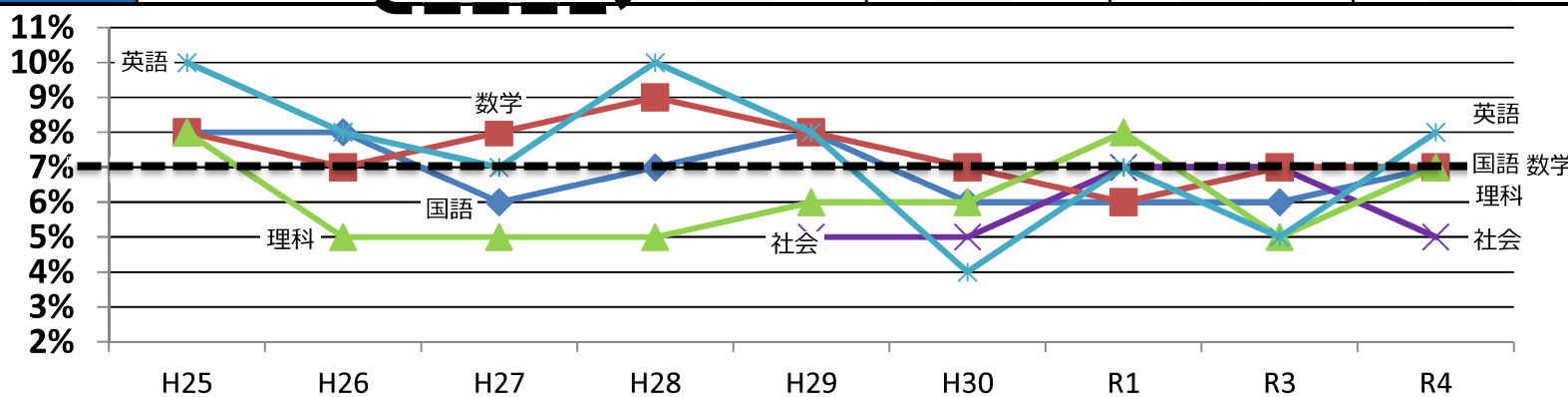
	段階	1		2		3		4		5	
	偏差値	34以下		35~44		45~54		55~64		65以上	
R4小学校 (市町村立学校)	国語	標準 6%		標準 18%	標準 37%	標準 33%	標準 44%	標準 5%			
	算数	標準 7%		標準 24%	標準 33%	標準 44%	標準 4%				
	理科	標準 7%		標準 18%	標準 31%	標準 40%	標準 4%				

低学力層
の推移



	段階	1		2		3		4		5	
	偏差値	34以下		35~44		45~54		55~64		65以上	
R4中学校 (市町村立学校)	国語	標準 7%		標準 16%	標準 39%	標準 36%	標準 2%				
	社会	標準 5%		標準 24%	標準 33%	標準 29%	標準 8%				
	数学	標準 7%		標準 22%	標準 31%	標準 36%	標準 3%				
	理科	標準 7%		標準 25%	標準 32%	標準 26%	標準 10%				
	英語	標準 8%		標準 25%	標準 35%	標準 25%	標準 7%				

低学力層
の推移



市町村別偏差値の推移【R4】

資料4

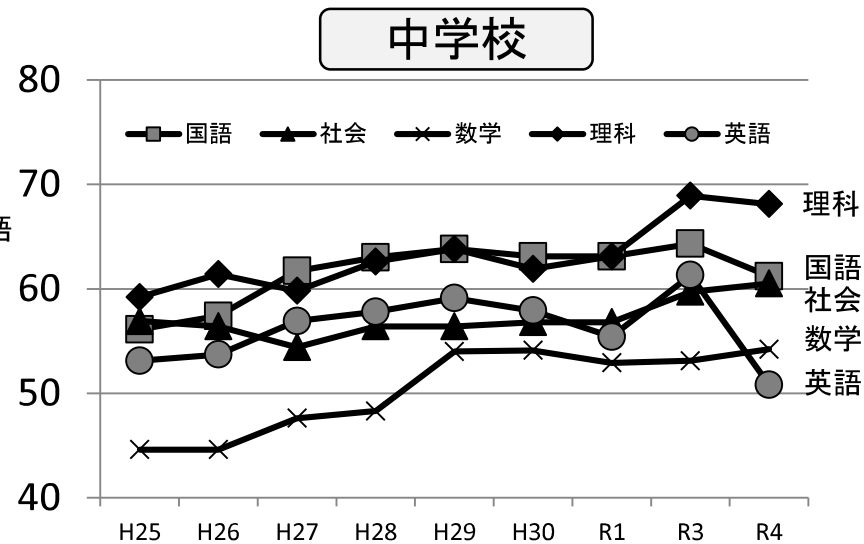
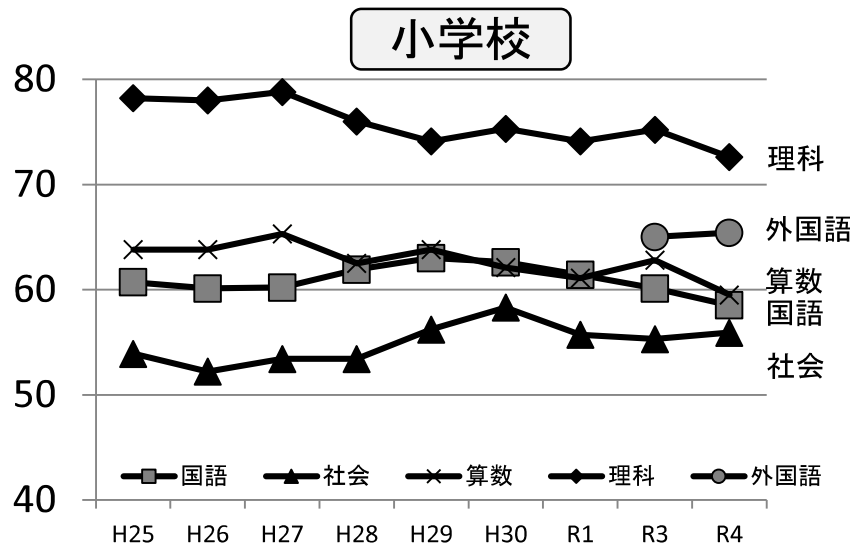
令和4年度	小学校						中学校									
	国語		算数		理科		国語		社会		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
中津市	50.8	51.2	51.5	50.5	48.7	48.7	50.3	49.9	49.4	49.7	50.2	48.8	48.7	49.9	48.7	48.7
豊後高田市	52.2	53.1	53.1	52.5	52.0	51.1	51.4	52.3	51.6	51.4	52.0	51.6	52.8	50.7	48.8	48.6
宇佐市	51.0	51.1	51.2	51.5	49.2	49.6	51.3	51.0	51.0	50.3	51.4	49.4	51.1	50.5	49.9	50.0
杵築市	51.2	51.7	54.1	52.4	53.2	53.0	53.0	53.2	51.9	51.9	53.7	51.8	53.7	52.1	51.1	50.9
別府市	51.2	51.8	52.7	52.1	51.8	51.5	52.0	52.2	51.5	50.5	50.7	50.0	50.9	50.8	50.7	50.7
姫島村																
国東市	51.2	52.6	53.2	53.5	53.0	52.0	52.7	52.4	49.5	49.0	51.2	49.1	50.8	50.2	50.7	50.3
日出町	53.8	53.9	54.4	53.6	53.5	52.8	52.7	53.3	52.6	51.1	52.3	50.8	52.2	52.2	50.7	50.2
大分市	51.4	52.1	53.1	52.8	51.9	51.1	51.1	50.8	50.6	49.6	51.8	50.9	51.4	51.3	50.0	50.0
臼杵市	51.9	53.1	55.0	54.3	52.4	51.1	53.8	53.2	53.4	52.2	52.9	51.6	52.3	51.8	52.6	52.0
津久見市	52.3	52.9	53.9	53.6	52.1	51.8	51.1	50.8	51.4	49.4	53.1	52.9	49.6	49.8	51.7	50.4
由布市	51.8	53.0	54.0	53.9	52.9	52.4	52.1	51.8	51.1	49.5	51.7	50.2	50.7	51.5	51.2	50.1
佐伯市	50.7	50.1	52.7	52.1	50.8	50.7	51.5	51.5	52.3	51.2	52.2	50.0	51.1	50.4	50.9	51.0
竹田市	52.1	50.1	50.9	51.1	49.8	50.5	50.1	50.1	49.8	48.6	49.8	49.1	49.9	50.1	47.2	47.4
豊後大野市	51.4	50.9	52.2	51.5	49.9	50.3	53.1	52.8	48.6	49.4	50.1	49.8	50.7	50.6	49.1	48.6
日田市	49.9	51.3	52.3	51.1	50.4	50.5	50.4	50.9	49.5	50.0	50.1	48.9	48.2	48.2	48.4	49.5
玖珠町	50.3	51.5	54.7	56.0	52.2	51.8										
九重町	50.7	51.5	52.0	49.7	50.2	49.7										
市町村立学校	51.3	51.9	52.9	52.4	51.4	50.9	51.4	51.2	50.7	50.0	51.4	50.3	50.9	50.8	50.0	50.0

※姫島村の小中学校、玖珠町及び九重町の中学校は1校のため公表しない。

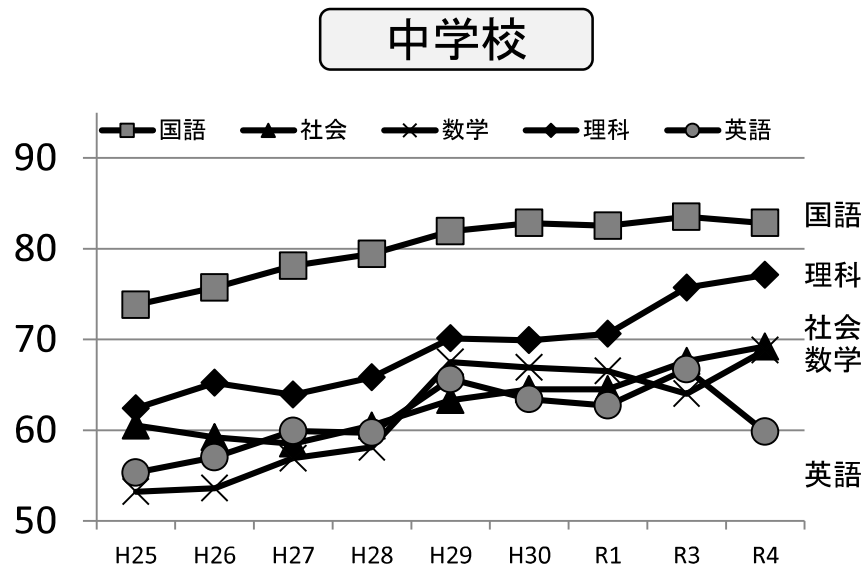
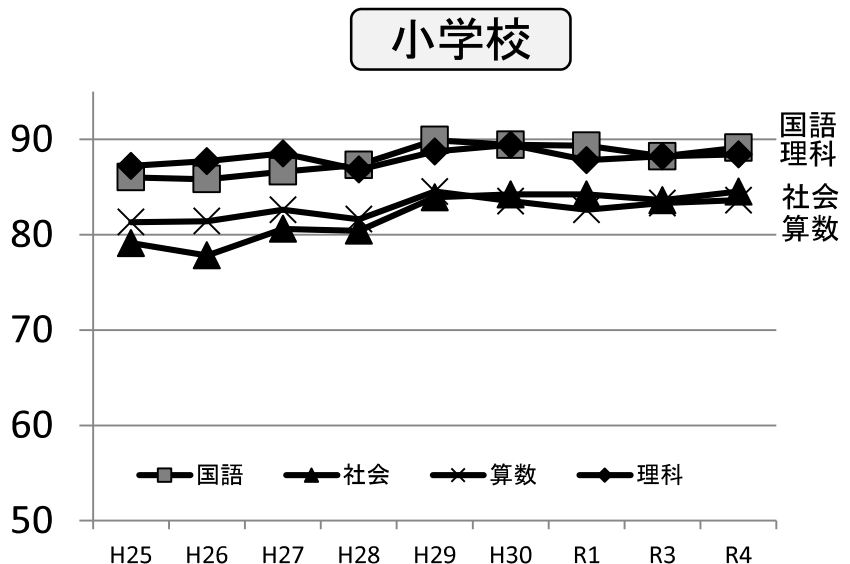
質問紙調査結果の推移「勉強が好き」「勉強が分かる」(H25-R4)

資料5

教科の勉強はどのくらい好きですか。
(肯定的回答割合)



教科の勉強はどのくらい分かりますか。
(肯定的回答割合)



- 「教科の勉強はどれくらい好きですか。」の質問について、小学校は、社会の肯定的な回答の割合が増加。その他の教科は減少。中学校は、数学と社会の肯定的な回答の割合が増加。その他の教科は減少。
- 「教科の勉強はどれくらい分かりますか。」の質問について、小学校は、肯定的な回答が横ばい。中学校は、理科、数学、社会の肯定的な回答の割合が増加。その他の教科は減少。

質問紙調査結果から見える授業改善の現状

資料6-1

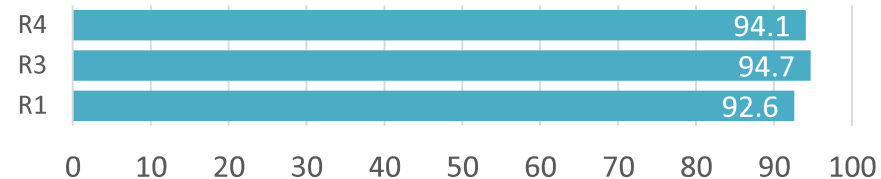
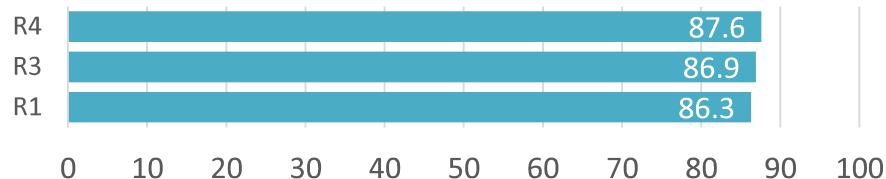
【小・中学校の傾向】

- ・「授業の中でめあてや課題が示されていた」、「授業の最後に学習内容のまとめや振り返りをよく行っていた」、「授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていた」の各項目については、8割を上回っている。
- ・「ICT機器を使ったことにより、興味・関心が高まったり、理解が深まったりした」と回答した割合は増加しており、教育活動におけるICTの利活用が進みつつある。

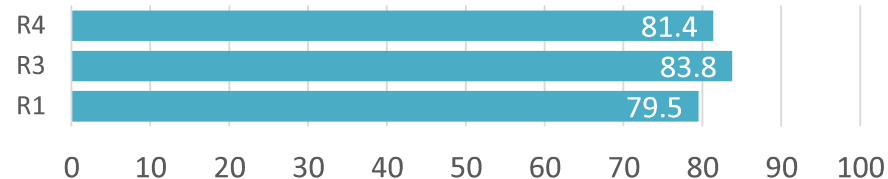
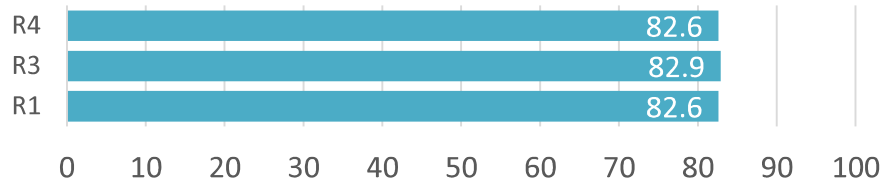
小学校

中学校

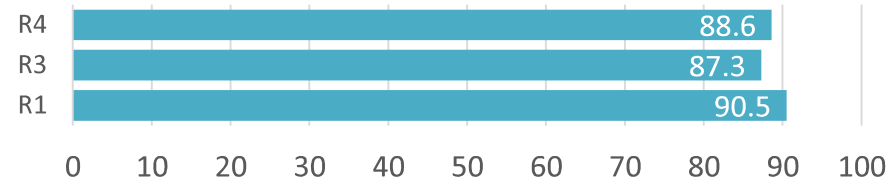
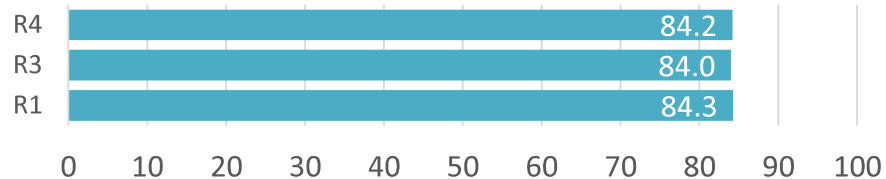
○授業の中でめあてや課題が示されていた。



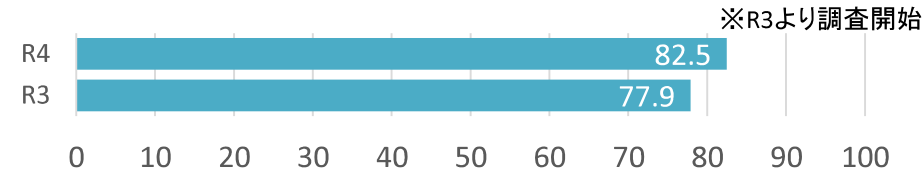
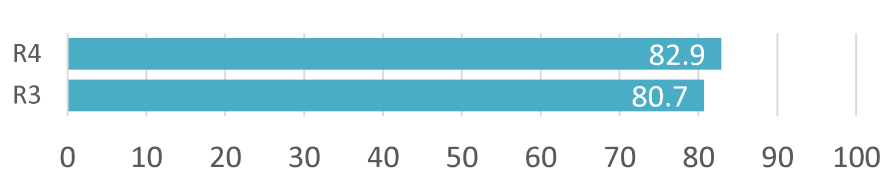
○授業の最後に学習内容のまとめや振り返りをよく行っていた。



○授業で、学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っていた。



○ICT機器(コンピュータやタブレット、電子黒板やプロジェクタ等)を使ったことにより、興味・関心が高まったり、理解が深まったりした。



質問紙調査結果から見える児童生徒の現状

資料6-2

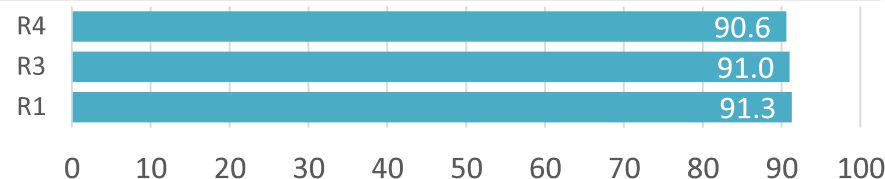
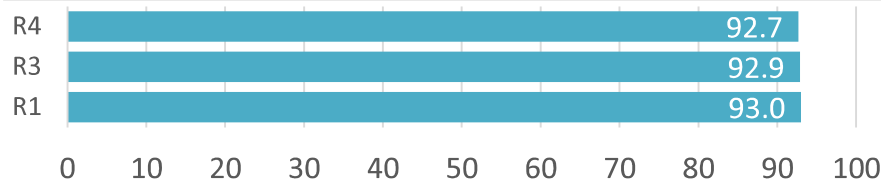
【小・中学校の傾向】

- ・「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがある」に、9割以上の児童生徒が肯定的回答をしているものの、「自分にはいいところがある」の肯定的回答は小学校で70%、中学校で65%程度に留まっている。
- ・「将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がある」に肯定的回答は、小学校で87%、中学校で72%であり、いずれもR1年度に比べ、小・中いずれも3ポイント程度減少している。また、「家の人から言われなくても進んで勉強している」に対する肯定的回答は小学校よりも中学校のほうが低い。

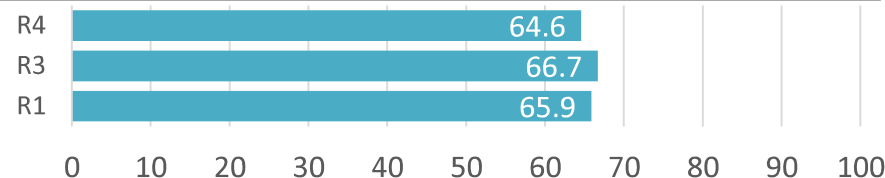
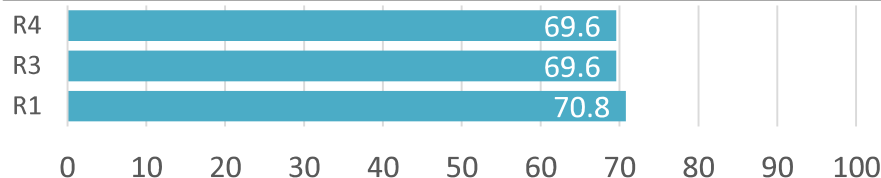
小学校

中学校

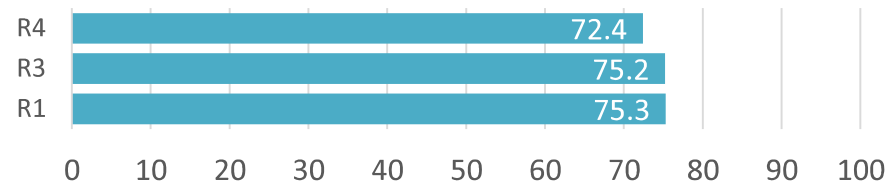
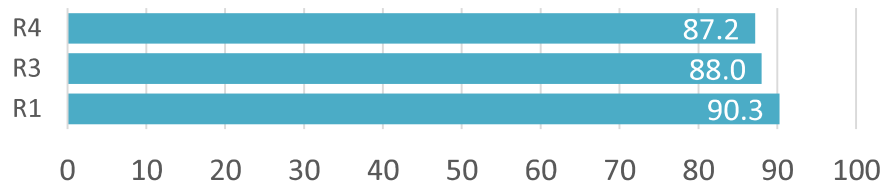
○自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがある。



○自分にはいいところがある。



○将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がある。



○家の人から言われなくても進んで勉強をしている。

